交され笑顔絶えない会社に

田中新社長が抱負

ラベーパーテック

カグラペーパーテックは5月31日、田中恵里砂常務が新社長に就任し、玉井健一社長が代表権を持つ会長に就くトップ人事を敷いた。6月17日に尼崎市の本社で開いた会見で①経営体質の見直し②ダイバーシティー③グローバリゼーション④DX⑤社員交流――を進める方針を発表。田中社長は「チャレンジを続け、取引先に愛され温かみのある笑顔が絶えない会社を目指す」と抱負を述べた。トップダウンではなく、社員とも意見を交わして会社を運営する「チーム経営」を掲げた。

田中恵里砂社長（右）と玉井健一会長

玉井会長は会見で「今回の社長交代は当社にとって『第3の創業』ととらえている」とあいさつ。「一度目は創業者で父の玉井薫が1958年に行った会社の設立、2回目は1999年に私が社長就任時に行った事業再編だ。プラントからペーパーライザー中心の事業展開にシフトしたが、改革には気力と体力が必要だった。今から思えば若かったからできたことだと思う。今は100年に一度の大変革期で、脱炭素を含め課題が山積している。新たな価値観を作ることができる若い経営者に道を譲ることが最善と考えた」と経緯を語った。

「当社は創業66周年を迎えた。100年企業を目指すためLPガスの事業が好調なうちに新事業の構築が必要。田中社長には大輪の花を咲かせてほしい。私は今後も会長として、相談を受けた際にはアドバイスをしたいと考えている。加えて会社の歴史を伝える語り部として、若い社員に自分たちのルーツをしっかり理解させる役割を果たしたい」とエールを送った。

田中社長は「これまでのオーナー経営から、初めて生え抜き社員が社長となった。時代の変化とともに当社の役割、社員のライフスタイルも変わってきた。先輩が築いた文化を大事にしながら新しいカグラを作りたい」と所信を表明した。

田中社長は1972年2月29日生まれ、神戸市出身。高校時代に簿記資格を取得したことが仕事の礎になっている。短大卒業後に1社経験して1993年、カグラインベスト（当時）に入社。管理部門で実績を重ね同社で初めて育休を取得した。2003年に女性として同社初の管理職に就き、10年には中国の現地法人、神楽燃気設備（上海）の董事に就任。16年には女性として同社初の取締役に就いた。同時にカグラエンジニアリングの管理部長に就任し、カグラペーパーテックとの統合を進めた。

同社は営業面では、補助金を絡めた非常用発電機の提案に注力する。簡易スタンド「オートコンポ」は最近の需要増を踏まえ、T&Dリースとの連携も模索している。アンモニア事業の拡大に力を入れ、水素エネルギーも視野に入れる。海外で注目するのはアフリカ市場。LPガスで現地の人々の環境や健献する。ドク（横浜市）の店として取り水素水事業は中心に欧米や販を進めてい

「仕事に厳たことは絶対性格」と自己中社長。育休管理職登用な男女平等の働場を追求する